

## 議事録 令和7年度第1回市川市博物館協議会

日 時： 令和7年8月21日（木） 14：00～16：00  
 場 所： 市立市川歴史博物館2階講堂  
 出席者： 博物館協議会委員 13名（別紙参照）  
           <文化財課>小笠原課長、高橋主幹、荒井自然博物館長、松本副主幹、小野副主幹、久保主査、金子主任、山岸主任、岡本主事、福島主事

提出書類  
受領書類

発言者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
松田委員長	お手元資料の会議次第に従って、本日の会議を進めます。 初めに会議の成立、会議の公開について事務局より説明をお願いします。
高橋主幹	本日は、14名中13名の委員が出席されておりますので、「市川市立博物館の設置及び管理条例」第12条第2項の会議開催の規定「委員定数の過半数以上の出席」という条件をみたしておりますことから、この協議会は成立しておりますことをご報告いたします。 次に、会議の公開についてですが、市川市では協議会等の会議の「公開」「非公開」の決定について、議事に先立ち決定することとなっております。 事務局では、本日の介護を「公開」とすることを考えております。
松田委員長	それでは、本日の会議については「公開」とすることによろしいでしょうか。 ご異議がございませんので、本日の会議は「公開」といたしました。 傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。
高橋主幹	本日は傍聴者はおりません。
松田委員長	それでは、これより「令和7年度第1回市川市博物館協議会」を開会いたします。本日の会議の内容については、議事次第を確認していただければと思いますが、報告事項2件、協議事項2件、その他が1件、「第6回全国国府サミット in 市川」の開催について、次回開催日程、となってございます。 早速、括弧1の報告事項、令和6年度事業実施状況に対する自己評価について事務局より説明をお願いします。
松本学芸員	考古博物館の松本と申します。 資料左側の大分類ごとにまとめて説明いたしますが、トピック的な内容を中心に報告いたします。 収集保管・調査研究事業につきまして、そのうち市内出土史料調査は年間を通して実施可能な時期に行っており、令和6年度では縄文担当の学芸員が各地で調査したほか、寄贈された直刀の出土地を求めて、果たしてどこから出土したのかということなどを調査しました。 文化財担当関係調査では、曾谷貝塚或いは下総国分寺跡などの史跡保存活用計画の策定でそれぞれサポートメンバーとして入り、中身を詰めていく手伝いを行っております。 展示事業では、令和6年度は考古博の大規模な企画展の開催年ではなく、通常の常設展、或いは大学生の館務実習を兼ねた小企画展を開催しております。

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 山岸学芸員	<p>また、県指定になりました釈迦如来立像は、いわゆる花祭りなどにも使われたであろうと推測できるため、欠失している水盆を復元した様子を館報にお示ししています。</p> <p>教育普及事業のうち全市民対象としたメニューとして講座や講演に相当するものの、ワークショップ、未就学児でも参加可能なスタンプラリー、おまつりなどの行事を幅広く揃えております。そのうち、トピックとしましては歴史セミナーで、大河ドラマで紫式部が取り上げられておりましたので、それに合わせて講演を実施しました。そのほか、アイ・リンクタウンという市の展望施設では、南側に年表を設置し、除幕式と称して、市長、教育長、近隣の小学生らに集まっていただきました。</p> <p>年表に関しましては、展望施設、考古博物館、歴史博物館の3カ所を廻るスタンプラリーを開催しました。更に、市の広報の8回分を使用しまして、広報紙最終面に年表の一部を掲載し、市民の皆さんに注目していただこうと広報広聴課と一緒に取り組んでいます。</p> <p>次に、運営の中のトピックとしましては、考古・歴史博物館の公式ウェブサイト、SNS運営という項目で、資料の貸借、史料調査に来られる方が色々な申し込みをされますが、その手続きを簡略化し、ウェブサイトに掲載している書式の説明を充実させました。以上、考古博物館の松本でした。</p> <p>続きまして、歴史博物館の山岸と申します。</p> <p>私からは歴史博物館について、考古博物館と同様にトピック的な内容を報告いたします。</p> <p>まずは収集保管及び調査研究事業の欄から見ていきます。</p> <p>新着収蔵の古文書 90 点の整理と館蔵史料の再整理、これが約 900 点の整理が進みまして、民俗史料としましては館蔵史料 100 点余りと大型史料の再整理が進みました。このうち古文書に関しましては、1 つの家の古文書の数が膨大であるため、全体的に整理は進んでいない状況です。</p> <p>民具資料につきましても、既存の収蔵史料の再整理を優先しているため、新着史料は進んでいませんが、今後進めていく予定です。</p> <p>資料及び古写真のデータベース化も、収蔵資料の調査研究と並行して古文書目録のデジタル化を継続しており、会計年度任用職員の協力を得て、令和 6 年度は前年度から続いていた 5 件、800 点あまりのデジタル化が進みました。</p> <p>展示事業、発見体験昔の暮らしでは、学校連携学習資料展となっておりまして、従来は 11 月から 1 月にかけての展示だったのですが、小学校 3 年生の校外学習が 9 月から始まりますので、9 月に合わせて開催しました。</p> <p>そのため会期が 2 ヶ月延びたことで、入館者数も前年度より 4000 人あまり増えました。</p> <p>小企画展は季節の展示として例年通り行っています、収蔵庫整理展は、國學院大學観光まちづくり学部を中心とした学生ボランティアによる収蔵庫整理を行いました。大型資料と製塩道具を中心清掃現状調査、デジタル撮影を行いまして、その成果報告点を、9 月から 1 月にかけて実施しました。</p> <p>次年度以降も引き続き実施していく予定です。</p> <p>教育普及事業の全市民対象では、季節の行事体験では藁リースづくりを行いました。参加者に藁縄いをしていただいてクリスマスリースまたは正月飾りを作ってもらう体験となります。また縄縄いは手でやってもらう以外に機械の足踏み式の縄縄い機というものも稼働できるように整備いたしまして、動くようになって</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 金子学芸員	<p>いますのでそれも体験していただきました。次年度以降も縄縄い機を利用する機会を増やしたいと思います。</p> <p>昔の暮らし等の体験講座ですが、洗濯体験と竹の水鉄砲づくり、和綴本作りは7月、8月に実施している子供向けの体験講座になります。</p> <p>近年、猛暑が続いているため、次年度以降は安全面を考えて、洗濯体験を実施せず、代わりに竹の水鉄砲づくりの回数を1回から2回増やす形に変えていきます。ナイトミュージアムに関しては実施せずに、オータムフェスタに変更しました。</p> <p>オータムフェスタに関しては、演奏会であるとか、足踏みミシンの体験、絞り遊び等を実施しました。</p> <p>こちらは、博物館のボランティアの他にも、和洋女子大学の学生ボランティアにも協力していただきました。好評だったため次年度も実施したいと思っています。次に、教育普及事業の学校連携ですが、学校巡回展、教材用資料貸出し、出前授業をそれぞれ行っています。出前授業が2校、資料貸し出しをしたのが1校です。今年度は塩浜学園で行徳の歴史、富貴島小で昔の暮らしの出前授業を実施しまして、実際に使われていた道具などを持っていて生徒に触ってもらう時間を設けました。</p> <p>また昭和学院中学校には戦時期の資料を貸し出し、授業で使っていただきました。こちらも申し込みがあれば、翌年度も実施する予定です。</p> <p>地域連携では、博物館友の会事業への協力をに行っておりますが、こちらは年間を通じて活動場所の提供の他、講演会講師、会報の原稿執筆などを行っております。同様に公民館講座も実施しており、また外部依頼講座も行っており、こちらも要請があれば協力していく予定です。</p> <p>歴史博物館からは以上となります。</p>
	<p>それでは、自然博物館より令和6年度自然博物館事業実施状況評価についてご報告いたします。</p> <p>資料1枚目、収集保管及び調査研究事業ですけれども、収蔵資料の調査、整備及び専用パソコン管理ということで、目標または予定では収蔵台帳のウェブ公開を行う、実施及び達成状況としては、収蔵標本リストから植物をウェブサイトに公開したということで、収蔵している植物標本のデータがエクセル表になっておりまして、そのエクセル表をホームページウェブサイトに貼り付けるという形なので、誰でもダウンロードして、当館にある植物標本の情報を得ることができるようになっています。当然、並べ替えをしたり検索をかけたりが、ダウンロードした方が自由に行えるという形で、一応目標の1つを達成したとしています。</p> <p>評価を始めた最初の頃は、博物館として当然、これぐらいのことができてA評価でしょうということで、自己評価をBなりCなり辛口につけていましたが、毎年議論をいただく中で、当方とニュアンスが少し違う先生方もおられまして、別途、評価基準がありますけれども、A・B・C・DのうちのB、ほぼ見込み通りの成果を達成したらBなので、できていなければC、D評価、思った以上にできたらAだという評価だと思いますが、ただ括弧の中のパーセンテージを見ると、Aが90%以上になっているので、これがとても揺れてしまう原因ですけれども、とりあえず何年間かのご議論の経緯を踏まえて自己評価をつけました。</p> <p>とりあえず収蔵標本リストをホームページ上にアップできたというのは良かったかなと思います。</p> <p>展示事業ですが、常設展示の目標では予定年間10万人の来館者を目指しまして、</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>実施及び達成状況では10万人以上の来館者があったということで評価をつけています。ただご存じのように当館の場合は、動物園という観光施設の中にある博物館という教育施設なので、そもそも観光施設としての集客がありますので、母数がすごく大きいので、おそらく他館と比較をするべき数ではないと考えておりますけれども、観光施設としての動物園が集客をした中で、来てくださった方をどれだけ展示室、博物館施設の方に引っ張ってくるかというのが私たちの仕事であると思います。</p> <p>動物園が大体年間20万人ぐらいの数字が出ていますので、動物園の半分ぐらいの10万人ぐらいを目標値に設定しまして、目標を達成できたということでA評価になっています。</p> <p>その他、教育普及事業の全市民対象事業では、4つの事業、長田谷津散策会、大町自然観察園環境整備、スナヤツメ・レスキュー、ホトケドジョウ・レスキューとあって、これは参加者数でA・B・C・D評価をつけましたが、スナヤツメ・レスキュー、ホトケドジョウ・レスキューがD評価になっています。スナヤツメは魚です。あとホトケドジョウも魚です。国の絶滅危惧種の魚が博物館に隣接する自然観察園などで生息しています、どちらも決して安泰な状況ではないので、生息状況調査、それから環境の改善活動等博物館主催でボランティアの方と一緒に、或いは単独で行っている形です。</p> <p>ただ、地味なボランティア作業なので参加者数で評価してしまうと、1回当たり10人の参加者で考えていましたが、スナヤツメ・レスキューだと3.5人、ホトケドジョウ・レスキューは3.6人で、目標値の50%も達していないので、評価基準どおりD評価になっています。ただ、これは参加者数で評価してはいけないだろうと思っていて、スナヤツメが保全できればいいのではないかとか、ホトケドジョウが保全できれば、増えたらA評価ではないか、減びてしまったらD評価ではないか、もしかしたら数値評価であっても、評価基準を変えたほうが良いのかもしれませんのでご議論をいただけするとありがとうございます。</p> <p>次に、教育普及事業の学校連携ですが、出前授業は申込みを受けて実施し、19回実施して1,834人、グリーンスクールは12回実施で945人の参加となっています。19校、12校ではなくて19回、12回としたのは、同じ学校に複数回行っているためで、延べの学校数で言えば両方を合わせて31校の実施となります。</p> <p>こちらはいずれもA評価をつけましたが、ここもちょっと煩悶するものがありまして、私もあと1年で完全退職をします。それで、新しい学芸員が入りますが、学校との連携は、人の繋がりによるものが非常に多いので、令和6年度の19回の出前授業、12回のグリーンスクールをB評価で基準値にしてしまうと、次世代の学芸員が入ったときに、最初からその基準値をクリアできるかというと、学校の先生方との繋がりづくりから始めていかなければならないので、どこを基準にするかというのはその状況で大分変わってきててしまうので、数値評価の時どうしたらいいのか、とりあえず他の館の状況も見て評価をついている感じになります。最後に運営に関してですが、施設の維持管理及び庶務事務については、年間を通して予定通り実施したこと、また5月に収蔵庫専用の空調機が壊れたことに対し9月補正で対応することができたことでそれぞれA評価としました。</p> <p>収蔵庫専用空調システムが壊れてしまって、ちょうど丸1年で新しいものに更新することができました。それで、先日の千葉県博物館協会の施設見学会が当館でありまして、参加した各館の方に収蔵庫も見ていただいて、空調システムも見ていただきました。あわせて収蔵庫も他の館と同じで当館もかなりいっぱいになりつつありますので、今後、市町村立博物館として施設の老朽化、収蔵庫が</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 高橋主幹	<p>いっぱいになることに対して、どうすればいいかの議論をしたところです。とりあえず第3世代の収蔵庫専用の空調機が今稼働し始めてとてもよい状態で収蔵庫が維持できていることで評価がAとなっております。以上です。</p> <p>今、三館からそれぞれ自己評価の説明を行いました。お手元の資料、令和6年度事業実施状況に対する外部評価の資料をご覧ください。先に申し上げますが、今、各館ごとに自己評価をした中で、6つの大きい項目について総合的に判断した中で、とりあえず全てB評価とさせていただきました。簡単にご説明しますと、まず、収集保管及び調査研究の成果としまして、研究調査の部分では、考古博物館では、文化財課内で現在進行中の曾谷貝塚保存活用計画や下総国分寺跡附北下瓦窯跡の整備基本計画の2つの計画策定に協力しておりまして、この策定検討会で行っております現地調査や調査報告会等の説明、解説についても協力しました点、それから、収集保管の部分では歴史博物館で新しい試みとしまして、学生を中心としたボランティアにより、収蔵品の整理を行い、今後のデータベース化や、資料保存に道筋がつけられた点。また自然博の方でも未整備データが整理されて収蔵資料を市の公式ウェブサイトにテスト公開した点など、こういったところを非常に評価できると考えている一方、やはりこれらはそれぞれ、今後も継続していく内容であるということから、達成率ということを考えますと90%以上というような評価とはしにくいというところで、総合的に判断いたしましてBといたしました。</p> <p>次に、展示事業についてです。展示は収蔵資料や博物館の研究成果などを発表する「華」の部分ですが、考古博物館、歴史博物館につきましては、昨年度は小企画展等を数多く企画いたしました。ただ、令和5年度の来館者数を比較しますと、大幅な伸び等は実現できませんでした。これは1つには、展示替えがやはり大きな課題かなというふうに思っておりましたが、ここしばらくきちんと大きな展示替えができるない、展示物についても同じものだと言われてしまうのは、やっぱりそういったマイナスのイメージが影響しているのではないかといったところで、しかしながら、今回実数としてはどちらの館も微減に食い止めたところが評価できると思っております。</p> <p>一方、自然博物館については、目標の来館者数を達成しているということから、この辺りを含めて3館合わせまして、これも評価をBとさせていただきました。市民向けの教育普及事業につきましては、基本的なレベル、内容をクリアしているという判断のもとで、評価はBとしております。</p> <p>先ほど自然博物館からも話がありましたが、達成度を数値化するために、例えば市民参加数で判断せざるをえないとか、これまでの研究成果を市民に還元できたかどうか、希少生物を保護できたかどうか、といった数値目標での評価に適さない面がある項目の評価基準について見直すべきかどうか、今後検討していきたいと思っております。そのような話を含めた判断のもと、評価をBとしております。それから学校関連の教育普及につきましては、市内小中学校からの依頼による出張授業、学校関連学習資料展を利用した体験学習指導、自然観察園での授業を実施しまして、学校の授業と密接に関連しながら、市川市の歴史や自然について知ったり、さらに深い理解を得たりする機会となっていると思っておりますが、しかしながら、達成度としましては学校からの依頼数によるところが大きいだろうということで、総合的にB評価といたしました。</p> <p>地域連携の教育普及につきましては、公民館事業や市民団体からの要請を受けて、講演会の講師、地域のお祭りに参加するなどして、市川市の歴史や自然について</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>の知識を得る機会を提供していると思っております。しかしながら、こちらもやはり学校連携と同様に、依頼をされる件数によるところが大きいため、こちらも総合的に判断してB評価としているところです。</p> <p>最後の運営についてですが、こちらにつきましては、考古、歴博ともに建物の附帯設備の老朽化への対応が非常に遅れております。</p> <p>常に修繕、改修工事の予算要求は行っておりますが、なかなか認められておりません。先ほどの説明もございました自然博物館では、空調関係につきまして不具合が発生したということで、来館者の拝観や利便性が損なわれることもあったと考えております。この突発的なものを含めた建物の不具合については、補正予算を組んで対応しているところです。</p> <p>一方、公共建築物の総合計画の個別計画では、この先、考古博物館、歴史博物館とともに、10年以上、現状のこの建物を使用する必要があることになっております。常々、財政部とは計画的な修繕について説明して必要な予算を確保できるよう協議している点、それ以外にも、例年どおり年報や博物館だより、市広報紙などを通じて博物館の活動をアピールしているということも判断いたしまして、評価をBとしております。</p> <p>以上、事業の実施状況に対する自己評価の説明といたします。</p>
松田委員長	<p>はい。ご説明ありがとうございました。考古、歴史、自然のそれぞれの館の令和6年度の実施事業実施状況並びに3つの館の総合評価、自己評価等について一通り説明いただきました。</p> <p>それでは、これより委員の皆様からのご質問、ご意見等を伺って参ります。評価に対するご意見はこの後の協議事項の際に伺うとして、まずはご質問、ご意見等がございましたらご発言願います。</p> <p>はい。では田辺委員。</p>
田辺委員	<p>博物館にお伺いします。教育普及事業の全市民対象のところで、夏休みスタンプラリーが前年度2から3割近く減少してしまったとあります、これについて何か原因がわかっているのでしょうか。それと、やはり考古博物館の運営についてなんですかでも、エレベーターが故障しているということなのですが、故障していても、展示室へは裏からルートがあるとかそういうことなのでしょうか。本当に見たいと思っていらした車椅子の方とかはもう見られない状況なのでしょうか。</p>
事務局 松本学芸員	<p>はい。お答えいたします。まず1点目、夏休みスタンプラリーですが、3割近く人数が減った要因というのは全くわかりません。毎年400人から500人近くの子供たちが参加してくれましたが、全くわからないです。</p> <p>そうは言いましても、手をこまねいていては何一つ改善できないので、資料には傷んだスタンプを交換したり、新たに制作してというふうに書いてございますが、館内を回っていただくとスタンプが設置されていますので、ぜひご覧いただければと思います。新しく作ったり、スタンプ自体は良くしました。</p> <p>それからあと、7月の広報紙で、夏休みの行事でこんな企画を考古博物館、歴史博物館と一緒にやっています、という告知を今年はしっかりして、紙面に大きく出して見ていただけるような努力をしております。今年は、行事に参加してくださる方々に、広報を見てきましたとか、SNSを見て博物館に来ました、行事に参加しますとか、或いはWEBを見てきましたという方が多かったですが、</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>今回、広報をみてきましたという方が多かったので、その辺りは多少、改善の見込みがあつてほしいと考えております。ちなみに本日の朝の段階で 352 人でした。昨年を上回ると思っております。</p> <p>2点目のエレベーターについてですが、これは本当に反省すべき、公共施設にあるまじき状態が続いております。工事を担当する部署と当課の事務職員とが濃密に協議、交渉を重ねておりまして、来年度に設置、事務自体は今年もどんどん進めているところで、来年度早々に直せる方向で調整中です。</p> <p>本当に心苦しいのですが、例えばデイサービスの方々ですとか、車椅子で来られて、ご覧になれない状態が続いております。当然、どうしても見たいと仰っていただければ、私共が人力でお運びするという決意ではおりますが、実際は遠慮される方が多いです。基本的には階段がございますので、健常者の方、健康な方であれば階段で登っていただくことになります。</p> <p>実は、仮の修繕はしてあります、運転できなくもないのですが、学芸員が点検中に利用したところ、閉じ込められたという事故がございまして、エレベーター会社に来てもらって、屋根を開けて、割とアスレチックのような形で脱出するような事態になってしまったのですから、安全第一ということでご利用は控えていただいているといった状況でございます。</p>
松田委員長	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。はい。 他にご質問、ご意見がございますか。</p>
櫻庭副委員長	<p>田辺委員の、夏休み期間中のスタンプラリーで利用者が減少した理由について、回答ではわからぬとおっしゃっていましたけど、多分、昨年度からですね、猛暑が多分影響して、お子さんも猛暑の中で何処か行きたいと言つても、例えばご家庭では外に出るなという形で結果がなっているのではないかと、これは推測でしかないですが、かなりこの猛暑が影響しているのではないかと。 逆に猛暑対策を考えた時に、先ほど話で出ましたナイトミュージアム、昼間ではなくて、夜という企画を少し考えた方が良いのではないかというふうに思いました。</p>
松田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
事務局 松本学芸員	<p>ありがとうございます。実は今、櫻庭委員がご指摘の、猛暑ではないかというご意見は念頭にはございました。ただちょっと根拠に乏しいので申し上げにくかつたというところです。実際、今メディアでは家にいましょうと、NHKでも外に出るのは控えましょうということをしきりに報道されています。 特に、自家用車のご利用でない、公共交通をご利用の方々などは無理をしてお出かけはなるべく控えましょう、ということなのかもしれません。 私もそのように思います。</p>
松田委員長	<p>はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか</p>
谷畑委員	<p>先ほど副委員長の方からナイトミュージアムという提案があったのですが、歴史博物館の方ではナイトミュージアムは実施せずオータムフェスタに変更ってあります、ナイトミュージアムがやりづらい理由などがあるのでしょうか。</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 山岸学芸員	<p>ナイトミュージアムをオータムフェスタに変更した理由としましては、どうしても夜間に開館するにあたって、職員が長時間拘束されるということと、外の街灯やその他の電灯設備の整備がちょっと大変な点で、考古博物館から歴史博物館の坂道の部分にはどうしても街灯がありませんので、外部業者に委託して街灯をつけるか、それとも、点々とライトを置いていくかの対応をしなくてはならない点、それに職員の人数的に負担が大きいということなどがありまして、オータムフェスタに変更したという状況です。ナイトミュージアムが結構好評なのは重々承知しております心苦しい点ではあります。以上です。</p>
櫻庭副委員長	<p>すいません、余計なこと言いました。</p>
松田委員長	<p>私も何年か前、ナイトミュージアムをやって好評だったときのことを覚えておりますので、ちょっと残念だなと思いましたが、しかし、オータムフェスタに切り換えて104名とかなりの方が参加していたということで安心しました。 他にいかがでしょうか。では滝口委員。</p>
滝口委員	<p>歴史博物館の方にちょっとご質問をさせていただきたいのですが、まず1点目として、収蔵資料の整備を進められているということで、非常にこれ必要なことだと思うのですけれども、整理をする当初の必要な配架先の場所の確保であるとか、或いはそれに必要な箱とかケースだとかいろいろ関連する博物館用品というのが必要になると思うのですけれども、そういうことがある程度ちゃんと踏まえられて順調に進められているのかどうかっていうことと、その整理をすると結局その先には収蔵資料のデータベース化がやってくると思うのですが、そういう見通しはどのような感じであるかということを伺いたいのと、もう1つは古文書とか古写真の目録のデジタル化をしているということですが、この先どのような活用を意図してされているのかということを伺いたいのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局 山岸学芸員	<p>まず収蔵場所につきましては、民俗の収蔵庫も古文書の収蔵庫もやはりカツカツになっていますが、収蔵した際に、受け入れた際にとりあえずどんどん入れていけという感じで入れていった結果、デッドスペースが生まれていることがありますので、そういうところもすべて一回、品物を出して、清掃して、入れ直すという作業をやっておりますので、少しずつデッドスペースを埋めていくって、ある程度の場所を確保して収蔵していく状況になります。 また資料整理に使う箱であるとかケースであるとか、そういう用品については、その都度買いますが、買わなくてはならないものを予算計上し、また、大学生ボランティアによる収蔵庫整理を、そういう活動をするから必要であると予算の根拠にもなりますので、そのようなときに買えるようにしたいと思っています。 データベース化と収蔵品整理と並行してどんどんやっていくって、自然博物館のようにリストを公開できればと思っています。 その間の資料の整理した資料の活用につきましては、やはり常設展示がどうしてもずっと同じ状態になっていますので、民俗資料でれば、同様の資料であるとか別の資料に入れ替えたり、古文書につきましても、常に同じ古文書を出していると傷んでしまいますので、別の資料に入れ替えたり、古文書講座の資料に活用できたらいいと思っております。 デジタルにつきましては、まだ見通しが立っていないですが、一応、その博物館にはこういったものがあるということをWEB上で写真付きで公開ていきたい</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	と考えております。
滝口委員	ぜひ、ちょっとずつでも何か公開されていくと良い循環が生まれるのではないかと思っています。
松田委員長	<p>はい。ありがとうございます。      他にご意見ご質問ございますか。      では、谷畠委員。お願ひします。</p>
谷畠委員	<p>自然博物館の方の、「数字で評価するのはどんなものか…」というお話が出ていて、他の博物館の事例を思い出したのですが、浜松市に歴史系の博物館があって、そこは何か入館者数はとるのですが、数字を評価するということを第一にはしないという方策に変えています。先ほどのスナヤツメとかホトケドジョウとかがちゃんと生息すればいいのではないかということで、数値評価だけではなくて、他の評価をつけるべきではないかというふうにおっしゃっていたのは、まさにその通りだと思っています。浜松市の博物館では、入館者数ではなくて、例えば来館者が、1回目より2回目の方がより子供たちが理解すれば、それにより評価があるというふうな基準を作っていますので、数値評価以外の何かというものを作っていけば、この博物館の評価はちょっとまた変わってくるのではないかと思っています。自己評価ではDになっていますが、もうちょっといい評価になるのかなと感じましたので、そういうふうに変えることが必要なかなとちょっと感じました。</p>
松田委員長	<p>谷畠委員、ありがとうございます。情報提供も含めていただきました。私も賛同するところです。数値目標や数値の実績は、参考値としてあってもいいと思いますし、むしろあったほうがいいと思いますが、やはりそれだけではわからないものがありますので、定性評価も是非、組み込んでいただければと思います。他にはいかがでしょうか。では、私からも確認します。</p> <p>まず、コメントです。考古博の運営のところで説明がありました考古・歴史博物館公式ウェブサイト、SNS運営ですけれども、これは良いと思いました。従来から情報発信が課題としてあがっていましたので、SNS、昔の名前で言うとツイッター、Xを両館ともにされていて、かなりの頻度で更新されているのはとても良いと思います。今回、貸借文書の手続きも効率化できたこともいいと思います。着実にやっているなと思いましたので、A評価でも良いかなと感じました。</p> <p>また歴史博物館の展示事業で、9月から1月まで学校連携学習資料展をやったという話でした。校外学習のタイミングに合わせて会期を延ばしたということで負担は増えたと思いますが、ここは数字に着目すべきかと思いました。</p> <p>入館者数が前年度より4000人あまり増えて9000人ですから、令和5年度は5000人だったのが9000人になった、つまり3ヶ月だったのを5ヶ月にして倍以上増えたということですから、これは本当に適切なタイミングをとらえた判断だったと感じました。</p> <p>あと歴史博物館の教育普及事業、全市民対象では、史跡見学会が9名だったというのがやや少ないように感じられましたが、ただ、これは天候等もあるとは思います。数字が全てということでは全くないと思いますし、</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 山岸学芸員	<p>9名の方々がとてもよい学びをしていたらそれでよいと思うのですが、実態についてお話できることをございましたら教えていただければと思います。</p> <p>また歴史博物館をめぐって、学校連携のところで、資料貸出1校があつて、昭和学院中学校に戦時期の資料を貸出したということでした。これは基本的に申し込みがあれば実施するということでしたが、貸し出す場合に学芸員の方がついていくものなのでしょうか。具体的には、誰が誰に貸し出しをされているのかというところについて教えていただければと思います。</p> <p>自然博物館の評価Aがやはり今年はたくさん出ていると思いました。</p> <p>とりわけ考古・歴史博物館と比べたときに、自然博物館はAが多いように見えます。しかし、収蔵台帳のWEB公開は、長らく懸案事項であったものを一気に解決されたわけですので、AではなくSぐらいあげてもいいのではないかと思いました。全体的にAが多いということが悪いというつもりは全くなく、むしろ、評価基準に課題がありそうです。例えば、参加者数、内容満足度すべて見込み以上の成果を得たと書かれていますが、数値をみると90%以上となっています。何となく我々の一般的な感覚では、B以上は100%を超えているもののような気がするのですが、こここの部分が、つまり「見込み以上」とパーセントで表示されている「90%を上回っている」の間にズレがあるような気がして、そのあたりをどう解釈するかでこうなってしまうのかなと思いました。</p> <p>これはしかし、年度ごとにブレる、或いは3つの館で差があるとまずいので、今回どうのこうのということではないのですが、何らかの3館共通の見解を設けられた方が良いのかなという気がしました。</p> <p>あと、総合評価のところで出てきた話ですが、考古博、歴博の建物を基本的に向こう10年間は使い続けなければならないというご説明がございました。何年か前に、建て替えの案の案といいましょうか、検討があったことを覚えております。その時には、かなり老朽化が進んでいるということで、2つの館を、場合によっては面積も狭くなるかもしれないが新設することを考え始めている、というようなお話だったと記憶しております。その「案の案」はなくなってしまったと思いますが、今後10年は今の建物を使い続けなければいけないとなった経緯について、どのレベルで、どのような判断がいつなされたかということについて、ご質問の3番目ということでお聞かせいただけましたら幸いです。</p> <p>歴史博物館の教育普及事業全市民対象の史跡見学会につきまして、参加者が9名。親子向け見学会として開催したのですが、中山法華経寺というのが渋過ぎたという感じです。参加された親子というのも、想定していた小学校の子供を持つ親御さんが来られるイメージでしたが、ベビーカーの方、ご高齢の方とあります。場所と対象年齢を再検討しないと、この人数がふやせないのかなと考えています。なので、今後は場所を違う場所に、人が集まりやすい場所といえば行徳か八幡のかなと、色々と考えた上でまた実施したいと考えています。</p> <p>学校連携の方では、資料貸出しにつきまして、今回は戦時期の資料の貸出しについてですが、これは学校の先生から当館に問い合わせがあって、戦時期の資料を中学校の授業で利用したいという申請がありまして、それに対して、うちにはこのような貸出せる資料がありますと、例えば、米軍が日本に投降を求める戦中のビラですね、空からまいたビラであるとか、消防訓練用のバケツであるとか、火消し用の叩きみたいなものであるとか、そういう貸出せるものを公表しまして、そちらを先生が、書類等の手続きをして、貸し出すという形になります。</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 小笠原課長	<p>終わりましたら、また先生が返却しに来てくれるという形になります。</p> <p>博物館の評価基準の方は、改めて検討させていただければと思いますけれども、もう1点の建て替えの方のお話ですけれども、委員長がおっしゃる通り、平成30年ごろに、一度建替えの話が実際ございました。計画というか、もう構想レベルで話が止まってしまいまして、その後コロナ前後ぐらいに、これは全国的な動きなのですが。公共施設の老朽化というところが課題になりました、総合管理計画というものを全国的に策定しなさいということが、確か総務省からだったと思いますけど、通知の方が出来まして、大体、学校施設の老朽化を中心として延長的な方法としての方向性についての計画を立てなさいというような指導がございまして、計画をそれに基づいて立てて、また学校や他の公共施設それぞれに対する公共施設の個別計画というものも、また立てております。</p> <p>具体的な年数はちょっと忘れましたが、4～5年前に立てられまして、今、計画上うたわれているのが令和12年までの計画になります。令和12年までに設計に着手する計画については公になっているのですが、その中で、博物館についてはまだ表現されていないというのが対外的な実情になっています。</p> <p>この順番ですが、基本的には築年数を目途にしておりまして、鉄筋コンクリート造りの建物につきましては、セメントの中性化といいますけれども、アルカリ性のものがだんだん酸性に近づいて中性化していくと、脆くなってしまうという、この年数が大体60年というふうに言われておりますので、この60年をめどに、60年を過ぎたら建て替えを進めてもいいよというような基準がございます。</p> <p>それは県、市の中で共通認識というふうにされている中で、公共施設、博物館のうち考古博物館が一番古いのですけども、築53年となりますので、少なくとも7年間は設計にも着手できないという状況ですので、それから設計に着手して建築に進めるとなると最低でも10年はかかるだろうと思われますが、予算もございますので、順調に必ずしもそれがいくとも限りませんので、少なくとも10年は使わなければならぬ計画になっていると考えております。</p>
松田委員長	<p>ありがとうございました。了解いたしました。</p> <p>そのほかに、ございませんか。無いようでしたら、次に進みたいと思います。</p> <p>報告事項が4点ございます。これはより短くなるかと思うのですが、考古・歴史・自然博物館から令和7年度の個別事業計画についてご報告いただくことになっておりますので、お願ひいたします。</p>
事務局 松本学芸員	<p>考古博物館からご説明申し上げます。</p> <p>かいつまんでご説明申し上げますと、展示は今年度も同様です。同様ですがホール小展示、縄文時代関係と課題をお示ししておりますが、学校関連の教育普及、大学学芸員課程、館務実習指導がございます。学芸員館務実習は無事に終了いたしまして、学生さんたちが作ったホール小展示も8月9日から公開されております。タイトルは堀之内・曾谷・姥山というものになっております。</p> <p>大テーマが示されておりまして、パネルを中心に3つの国指定貝塚を紹介するという内容になっております。</p> <p>次ですが、市民向けのアイ・リンクタウンの年表につきまして、今年度はお盆前頃から、実際に年表をご覧になられた方にスマートフォンのQRコードでフォームを開き、クイズに挑戦していただくという行事を歴史博物館と共同で開催しております。今のところ、20数人、すでにご参加いただいているます。</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>もっと継続的に実施しまして、広報もしまして、今後もう少し参加者が増えてくれるとよいと考えております。</p> <p>地域連携の教育普及、地域祭りへの参加というのを企画しております。これも既にいくつか実施しております、前回の会議でも申し上げたかもしませんが、ラグビーチームクボタスピアーズですが、市川市がホストタウンになっております。このチームのイベントに参加しました。試合当日、外周にテントを張りまして、隣は成田市さんで成田市さんは「ウナリ君」が来ておりまして、チラシをいっぱい配って大人気だったのですが、そのお陰で大変苦戦いたしましたけれども、私どもも普段、博物館で実施しております組み紐づくりのワークショップを開催し、60 数人の方にご参加いただきました。全く畠違いのイベントに参加するというのはなかなか苦しい行事だったのですが、いつもと違うお客様に博物館を紹介し、こんな遊びもあるということで、違う活動ができたのではないかと思っております。秋にはニッケルトンプラザというショッピングセンターで同じように組紐をやるという話が、いくつかの業者さんを挟んで準備中というところでございます。これも全く違う場所で博物館をアピールする良い機会かなと思いまして、あえて挑戦することにいたしました。</p>
事務局 山岸学芸員	<p>続きまして歴史博物館の事業計画です。</p> <p>収蔵民具資料整備、こちらも令和6年度に引き続きやっていくのですが、展示のところで同様に、この第1収蔵室民具資料整理の成果報告展示が抜けておりますので追加いたします。</p> <p>今、やっているのですが、1階常設展示室で、壁面展示で成果報告展をやっております。次に市民向けの教育普及のところで、市川歴史セミナー公開講演会ですが、市川歴史セミナーは考古、歴博の学芸員が、各時代を担当して順番に時代ごとに講座をやっていくのですが、それの近世の部分にあたる講座を公開講演会として、駒澤大学の菅野先生に依頼しまして、2月14日に実施する予定です。</p> <p>夏休み体験講座では、自己評価で述べた通り、洗濯体験をやめて、和綴じのメモ帳づくりと水鉄砲づくりだけにいたしました。水鉄砲づくりに関しては2回実施しました。加えて夏休み子供1日学芸員という別のイベントも追加しました。</p> <p>学芸員の仕事がどんなものであるか、博物館の裏側がどうなっているか等を見てもらい、加えて常設展示室内の資料を1つ選んでもらって、それについてキャプションを書いてもらうという体験になります。こちらも7年度から追加したイベントになります。</p> <p>地域連携の教育普及では、地域祭りに歴史博物館として今まで参加してこなかったのですが、自治会であるとか妙典にあるイオンの地域まつりに参加できないかということで、7年度は10月26日に実施される行徳まつりに参加する予定です。ここで博物館のPRであるとか、通常時に昔遊びの企画の中でやっている紋切り遊びなどを実施できればと思っています。</p> <p>運営の中のSNSによる情報発信ですが、若手の学芸員を中心として会計年度職員にお願いして、何かしらフォローしてくださっている方の目に留まるような情報を発信していくよいと思っています。そのため停滞していたインスタグラムの活用なども実施するようにしております。</p>
事務局 金子学芸員	<p>自然博物館です。事業計画している内容は例年通りです。先ほども触れたのすけれども、ちょうど世代交代の時期になっていまして、開館から30年ほど従事していましたが、退職をして第2世代に引き継ぐ状況ですが、このような事業計画</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>を全部を第2世代に渡して「やって」と言っても多分無理だと思うので、というのも、30年ぐらいかけてこれだけの事業をこなせるようになっているので、多分、世代交代の中で資料にある事業のいくつかは、外部に持ち出さなければいけないだろう、新しい学芸員にもやはり研究分野のこともしっかりとやってもらいたいので、そうであるとするならば、例えばいくつかのものは博物館が窓口になって外部ボランティアがやる、例えば学校に授業に行く事業は、実は、昨日も行徳地区の保育園に虫を連れて行って、2歳児から5歳児クラスまで4クラスの子供たちに虫を触ってもらって、すごく盛り上がったのですけど、それをなかなか新しい学芸員さんがすぐやって、2歳児や3歳児の相手ができるか、というところも含めて難しいので、第2世代の方がある程度経験を積むまでの間、窓口は博物館が行うけれども、例えば外部ボランティアとして退職した私が学校に行く、そういう世代交代とともに事業自体も内容が変わってくるのかなあという感じがしています。なので、もしかしたら数年後はこの事業計画表がもっと項目数が少なくなってしまうかもしれない過渡期ですので、逆に何かもしお知恵が拝借できれば、何かお考えなり事例なりがあれば教えていただければと思います。</p>
松田委員長	<p>はい。ありがとうございました。今年度の館別の事業計画は、前回の協議会でも報告がありましたが、今回新たに、新規にこの協議会の委員になった方もいらっしゃるということで、主な事業をかいつまんで報告していただきました。これらのご報告について、ご意見、ご質問等がございますか。</p>
谷畠委員	<p>私の見落としかもしれないで教えていただきたいのですが、今年は戦後80年ということで、各館、何かそれにちなんだ展示とかがあるのですが、近代となると歴博の仕事になると思いますが、何かそういう関連の事業があれば教えていただければと思います。</p>
事務局 山岸学芸員	<p>はい。戦後80周年ですので、何かしら展示はしようと思っていまして、今、計画しているのが館務実習展、学校関連教育普及の大学学芸員課程の実習指導にかかるのですが、大学生の学芸員を目指している方々に、館務実習のまとめの展示をしてもらう中で、戦後80周年展を開催する予定です。戦時中の資料ではなくて戦後、終戦後の人々の生活であるとか、引揚資料であるとかを展示しようと考えています。</p>
松田委員長	<p>他にご質問、ご意見はございますか。      歴史博物館、考古博物館の地域祭りに出していくというのは、とても良い流れだと感じました。全体的に、色々な博物館を見ていても、館の中に人を呼び込むだけではなく、館が地域に出ていてそこで人と交流するという流れが強くなっています、その方が市民の理解や支援が得られると感じております。      そういえば、歴史博物館の収集保管及び調査研究で、市内の小学校所蔵資料調査をやっていらっしゃいます。これは数年、何年かやってらっしゃると思います。昨年度は稻荷木小学校でも調査されたということでした。全国的に見ても、小学校に貴重な資料があるというケースが多くございます。昨今は少子化等の影響もあり、せっかくの学校の資料が生かされない、場合によっては廃棄されてしまうこともあります、どの小学校に何の資料があるかを博物館が調べることによってお宝が見つかることもありますので、この調査を着実に進めていらっしゃる市川市はとても良いと前から思っておりました。</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>他に質問やご意見ございますか。          ないようでしたら、では両括弧1の報告事項はこれで終わりになります、議題の両括弧2、協議事項に移りたいと思います。          先ほどご説明いただきました、令和6年度の事業実施状況、自己評価の説明がありましたが、外部評価に移っていきたいと思いますので事務局よりご説明お願いいたします。</p>
事務局 高橋主幹	<p>先ほどご報告いたしました、令和6年度事業実施状況に対する自己評価及び総合評価に対しまして、評議委員皆様のご意見として、協議会としての外部評価をお願いいたします。</p>
松田委員長	<p>はい、それでは、この進め方についてのご質問はございますか。          館別の令和6年度の事業実施自己評価及び総合評価が色々と種類がありましたが、説明は先ほどいただいた通りです。          ここからは、A・B・C・Dまでございまして、このままでよいのかということです。自己評価で挙がっていた内容について、評点を上げた方が良い、下げた方が良いとうものがございましたら、ご指摘いただければ幸いです。          はい。山田委員、お願ひします。</p>
山田委員	<p>はい。山田です。皆さんのご議論と、説明の資料を拝見したところ、幾つかB評価をA評価にしたほうがいいのではないかと思っておりまして、まず一番上の考古博物館のところ、自己評価Bですけれども、報告書のことに関して積極的な活動もありますし、これはAでもいいかなと思っております。          あと展示のところで言いますと、歴博のところで、先ほどたくさんご意見がありました通り、資料記載の企画展などもたくさん行われていたりしているので、そこもA評価で良いかと思います。また、市民向けの教育普及というところでは、考古博物館ではイベントが開催されて多数の参加者があったということで、Aで良いのかなあというようなところがあります。          総合評価の方では、収集保存保管及び調査研究ところの自己評価全体を含めて、A評価かなっていうことと、展示のところもAにした方が良いのではないかなと思います。</p>
松田委員長	<p>はい。ご意見ありがとうございました。          確認ですが、総合評価を見るといいと思うのですが、収集保管及び調査研究のところ、現状BをAにする、このことによってA・B・Aとなります。また、展示のところは現状B・B・Aとなっておりますが、歴史博物館の展示に突出したもののがあったことでB・A・Aにして、これを受けて総合自己評価はAが2つになりましたので、全体としてAにしてもよいのではないかというご意見でした。          市民向けの教育普及につきましては、考古のところがBになっているけれども、これをAにしてはいかがかという提案でした。          他にも今の山田委員からのご提案に関して、また或いは別の観点でもよいかと思いますが、ご意見がございましたらお願ひいたします。</p>
櫻庭副委員長	<p>博物館友の会です。          先ほどの歴博の方を見ていただくとわかりますように、非常に歴史博物館学芸員</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>のお世話になっています。特に、古文書講座を昨年度から始めまして、今年度も始めていますが、そこで実際の古文書の貴重な資料を、講座に参加された方にもお見せして、昨年は当初 30 名ぐらいの参加者が 20 名ぐらいに段々減っていって、それが今年度はですね、30 名ぐらいの参加者がそのままずっとまだ 30 名参加している。昨年の評価が古文書の講座に繋がったのではないかなどということと、また適切な資料提供、そのせいもあるということで、収集も展示も歴史は A でいいのではないかなどということと、あと市民向けの評価ですが、これも歴博についてはそういったことで、非常に手前みそになりますけど、中山法華経寺の参加者が少ないということで B と言っていますけれど、その他でこれは A でよろしいのではないかなどというふうに、市民向けの歴博ですね。ですから歴博は収集保管、それから展示、それから教育普及について A でよろしいのではないかと思います。</p>
松田委員長	<p>櫻庭委員、ありがとうございます。 歴史博は上の 3 つとも B という自己評価でしたが、3 つとも A で良いのではないかということでした。市民向けの教育普及、もし、今、自己評価では B ・ B ・ B でしたが、A ・ A ・ B になるのであれば、櫻庭委員、山田委員のご意見を受けて A となるのであれば、A が 3 つになるので A でも良いのではという気もします。とはいえ、今の段階での提案ですので、他にご意見やご質問があればお願ひいたします。個人的には、総合自己評価が全て B というのは何となく予定調和すぎますので、メリハリはあった方が良いと思います。ちゃんと評価し、もし足らないところがあれば D や C があってもよいと思いましたが、すべて提案通りとなりましたら、よろしいでしょうか。甘すぎるという声がありましたらいただきたいと思います。はい。では田辺委員。</p>
田辺委員	<p>運営のところですが、考古博物館のエレベーター問題がやはり気になっておりまして、例えば、運営のところ、考古博物館を C というふうにこの協議会でつければ、財政との協議で何か力になれるとか、そういうことがあるのであれば、むしろここは C にして、ということも考えられるのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。</p>
松田委員長	<p>思いやりある C 評価はいかがでしょうかということですね。でもこれは本当にその通りだと思いました。協議会からエレベーターをしっかりしろという意見があったことで、予算折衝に役立つのであれば確かにいいと思いました。予算確保の追い風になるような気がしましたし、評価としても C に前向きな意味があることは、けっして悪いことではないという気がします。</p>
櫻庭副委員長	<p>理由がちょっと不足してということですか。でなければ、ただ単に、何をやっているのか、で終わってしまう。</p>
松田委員長	<p>そうですね。理由をちゃんと書いた上で、すなわちエレベーターを改善してほしいと理由を書いて C をつける、ということでもよろしいでしょうか。 それでは、他にご意見やご提案がございますか。 無いようでしたら、改めて、重要な点ですので確認したいと思います。 資料上部から順に、館別自己評価では、収集保管及び調査研究が A ・ A ・ A を受けて総合評価では A 、展示が B ・ A ・ A を受けて総合評価 A 、市民向けの教育普及は A ・ A ・ B となり総合評価 A 、学校関連の教育普及は B ・ B ・ A のままで</p>

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
	<p>総合評価もB、地域連携の教育普及はB・B・Aのままで総合評価もB、そして運営がC・B・Aとなり総合自己評価はBのままという形で決めてもよろしいでしょうか。ご異論がないようでしたら、このように決定したいと思います。最後の運営の考古のCのところは、エレベーターの修繕が一刻も進める必要があるという何らかの文言を付しておくということで決定したいと思います。ご審議をありがとうございました。</p> <p>議題として、協議事項の2番目として市川市博物館基本的運営方針及び事業計画についてが挙がっておりますので、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局 小笠原課長	<p>手短にご説明をさせていただきます。博物館運営方針の見直しの方につきましては、令和6年度の会議におきまして、博物館運営方針の見直しの必要性と方向性についてご提案させていただきまして、ご了解いただきました。</p> <p>その際の概要についてご説明をいたしますと、まず見直しの必要性につきましては、平成31年度で前方針の計画期間が終了しておりました。その後更新がされていなかったこと、またその間、博物館法の改正もあり、そちらの対応が必要となること、また、今年中に見直しを行います博物館の再登録に向けての改正が必要であることをお伝えいたしました。</p> <p>また、見直しの方向性といたしましては、1から方針を見直すのではなく、必要箇所の見直しを求ることについてもご了解をいただいております。</p> <p>本日は前回までの方向性に基づきまして、博物館運営方針の内容についての見直しの案を作成いたしましたので、内容についてご協議いただければと考えております。</p> <p>それでは、資料の市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画をご覧ください。先ほど冒頭で、新旧対照表を別紙でお伝えしましたが、一番後ろのページにお付けしておりますので、そちらを見比べながら確認いただければと思います。</p> <p>主要な修正点をご説明させていただきます。まず表紙の部分ですが、タイトルを市川市立博物館運営基本方針及び事業計画の基本方針から、市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画に変更いたしました。</p> <p>こちらは博物館の設置及び管理運営上の望ましい基準、第三条の記載に合わせて文言を変更させていただいたものです。</p> <p>合わせて課名等も追記をさせていただいております。次に、方針の位置付けについて、内容の記載を変更いたしました。これは、第4次生涯学習推進計画という市の計画がございましたが、こちらが終了しておりますので、それぞれの市の計画の更新や博物館法や博物館の設置及び運営上の望ましい基準の記載を明示する形に変更したものです。</p> <p>次に、計画期間についてです。先ほどご説明いたしましたが、計画期間の見直しと総務生涯学習推進計画の終了に伴いまして、計画期間を教育振興基本計画の計画期間と合わせております。</p> <p>続きまして、資料4ページから7ページ目につきましては、博物館法や文化芸術基本法に沿って下線部分の内容を追記しております。</p> <p>8ページと9ページは7ページまでの内容の整理と、それに沿った現状の取り組みについて変更を行っております。</p> <p>最後のページ、下段に記載しておりますが、本来第5章として、第4次市川市生涯学習推進計画における博物館事業という項目がございましたが、活動計画の終了に伴いまして、章ごと削除しております。</p>

発言者	【内 容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
松田委員長	主な修正内容については以上となります。こちらについて何かご意見等ございましたらお願ひをいたします。
石垣委員	はい。ご意見やご質問はございますか。それでは石垣委員、お願ひいたします。 基本的なものはもう前回で協議されているというふうに伺ったので今更かもしれません、多分、肝になるのが3つの使命になるのかなと思います。 可能ならば、こういう調査研究とか保管とかですね、要するに、地域の宝を守っていくというのも博物館のやっぱり部分なので、活用に頭が行き過ぎているような感じを正直受けました。なので、全体の使命のところにもちろん書かれているのですが、そこから3つの使命として、と言ったときに、調査研究と保管が抜けるのは、何か博物館としてはちょっと勿体ないというような印象です。
松田委員長	石垣委員、ありがとうございます。事務局より何か今の点についてございますか。
事務局 小笠原課長	もともと策定していた計画がございまして、そちらの方の内容に沿った形で、使命の件については変更はしていないところになりますが、今回新たにお話をいたしておりますし、重要な視点かと思いますので、どのような形で加えられるかというところも踏まえて、検討していきたいと思います。
松田委員長	石垣委員のご指摘、大切なところだと思います。活用にもっと注力しないといけないっていうのは、大きな流れとしてありますが、資料が蔑ろになることがないような、文言が何か加えられれば加えていただけるようお願ひ申し上げます。 他に、ご意見があればお願ひいたします。
大橋（弥）委員	事業計画について、前年度もここにいましたので今更になるんですけども、先ほど歴史博物館の方で、中山法華経寺が9人だった、がっくり、そして評価が下がるとかいうお話とかあったのですけど、やっぱりこの新しい課長さんからお話を合った、具体的な事業内容は単年度の事業計画で適切な事業展開を図りますということが9ページに書かれているのですけども、やはり参加させていただいていると、たくさんの事業計画があって、金子学芸員さんもとても心配されているように、次世代に続いていくためには、この、頑張ってみたのだけど、上手い結果がいかなかつたということは、単年度にはあると思うのですけれども、それを刷新していくような計画を是非、立てていただきて、12個あるから12個来年もやらなきゃいけないんだっていうことになると、形ばかりになると思いますので、ぜひその辺の内容を来年度に向けて今年度のものをやったときに、事業計画を令和8年度に作っていただけるような編集をしていただけたらいいなと思いました。 以上です。
松田委員長	大橋委員、貴重なご指摘ありがとうございました。 こういったものは、とりわけ公共機関だとやるべきことがどんどん増えていきがちで、現実性が失われていくようなところがありますので、柔軟に対応できるというような文言修正を含めてご検討いただければと思いますが、いかがでしょうか。

発言者	【内容】 令和6年度事業実施状況に対する自己評価について 他
事務局 小笠原課長	<p>ご意見ありがとうございます。事業計画について記載させていただいておりますが、その中で、大橋委員のアンサーではないのですけれど、新たな文言の中で選択と集中という文言を追記いたしました。なので、全てのことを網羅的にやるより難しいのかなというふうに思っておりますので、事業計画のページの方には、一応、今実施している計画を網羅しておりますけれども、やはり今後の事業の実施にあたっては、何を集中的に行って、何を選択していくのかというところも年度計画においては必要かなというふうに思っておりますので、そういう意合も含めまして、今回そのような新たな文言を加えさせていただきましたので、ご理解いただければと思います。</p>
松田委員長	<p>他にご意見、ご質問がございますか。 では、議事を進めていきます。両括弧3のその他の項目に移ります。 第6回全国国府サミットin市川について、事務局より説明願います。</p>
事務局 小笠原課長	<p>はい。チラシと、あと封筒をお渡ししているかと思います。 封筒の方には案内状を入れておりますが、ポスターのチラシにもありますとおり、今年の10月18日の土曜日に市川市と市川市教育委員会の共催で、第6回全国国府サミットin市川を市川市文化会館で開催いたします。 博物館協議会の山田委員にも千葉商科大学の学生さんと1つの展示物をお願いしているところでございますので、そちらも併せてご覧いただくことができます。 本日、パンフレット、チラシと封筒の中に招待券を入れさせていただいておりますので、そちらの方を是非、お使いいただけてご覧いただければと思います。</p>
松田委員長	<p>はい。国府サミットについてのご説明をありがとうございました。 ぜひ、参加できればと思っております。 はい。それでは議題はすべて終了いたしましたので、事務局からの事務連絡ということで、次回の協議会についてでしょうか。お願ひいたします。</p>
事務局 高橋主幹	<p>次回の協議会の日程につきましては、令和8年3月ごろを予定しております。 また、日程等につきましては、皆様のご都合を伺ながら決定、ご連絡させていただきたいと思います。</p>
松田委員長	<p>はい。ありがとうございました。 それでは最後に委員の皆様から、全体を通して何か発言がございましたらお願ひいたします。 よろしいでしょうか、それではこれをもちまして本日の日程はすべて終了となりましたので、市川市博物館協議会を終了させていただきます。 本日は皆様、大変ありがとうございました。</p>